

# 令和3年度 園評価・関係者評価書

園名	加西市立北条ならの実こども園
----	----------------

## 1. 教育目標

『健やかな体・豊かな心』 ・元気な子 ・やさしい子 ・素直な子 ・ねばりづよい子
--

## 2. 本年度の重点目標

『心動かして いきいきと遊ぶ子』 ～ 自ら感じ 関わり 表現できる援助を探る ～
---

## 3. 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	自己評価・改善の方策
園 運 営	○職員の資質向上 ・実践的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	・職員が参加しやすいように2グループに分け、グループごとに研修計画を立て、園内研修を実施したが、後半に偏ってしまった。 ・オンラインによる研修が多かったが、園において受講することができた。 ・部会ごとに活動を進めたが、部会を掛け持ちせざるを得ない職員もいた。	A	・少人数だったので、有意義な保育カンファレンスが行えた。 ・園内研修の日を前期・後期で均等に実施していく。 ・園外研修が極端に減っている現状を受け、向上心をもって研修ができた。 ・園務分掌はできるだけ偏りがないように見直していく。
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分に関わって展開する生活の工夫 ○子どもの主体性を大切にした指導 ○子ども一人一人の発達特性を踏まえた指導方法の工夫	・新型コロナウイルス感染症対策で遊び時間や遊び方の工夫をしながら、好きな遊びも学級活動も大切にしたい。 ・行事に追われることなく、日々継続した子ども主体の遊びを中心とした生活を充実させることができた。 ・子どもの育ちや発達特性に合わせて保育を実施した。 ・学級をまとめることよりも個性に寄り添いながら個性を活かした保育ができた。	A	・年齢に応じた経験や学びの保障はできた。様々な制約がある中ではあるが、異年齢での活動も意図的、計画的に取り入れていきたい。 ・一人一人の幼児理解のための保育教諭のカンファレンスを充実させる。
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○預かり保育、延長保育の実施	・子育て支援事業『どんぐりクラブ』は、新型コロナウイルス感染症対策により実施できなかった。 ・密を回避するため、2日間に分けて『遊びで育つこと』をテーマに家庭教育講座を実施した。保護者には好評であった。 ・三密の回避と預かり保育児の増加により、3部屋に分けて預かり保育を実施した。コロナ感染状況により預かり保育の体制が変わることが多く、異年齢での遊びを工夫した。	B	・新型コロナウイルス感染症対策をしながら、子育て支援事業『どんぐりクラブ』や子育てに関する相談業務も実施し、未就園児の保護者が子育てが楽しいと感じられる場にしていく。 ・年齢によって遊び方が違うので、それぞれが楽しめるように工夫していく必要がある。
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	・毎月、火災・地震・台風・不審者侵入時などを想定して訓練を行った。 ・アレルギーを含まない食材と調味料への切り替えを進め、園児や保護者、職員にとっても安全、安心な給食の提供ができた。 ・食物アレルギー時の対応、熱性けいれんの対応の基礎知識を学ぶ。誤食によるアナフィラキシーの対応やけいれん時の対応など、実際に役割分担をして研修を行った。1回の研修を6～7名とし、密を避けて間隔を空け、換気しながら全職員が研修できるような回数を4回に分けて行った。	A	・全職員が安全、安心な園をめざし、日々意識するよう心掛ける。 ・職員が常に危機管理意識をもち、様々な状況に落ち着いて対応できるよう新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、研修の機会を設け取り組んでいく。
道 徳 ・ 人 権 教 育	○子どもの体験や経験を通じた、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さに触れる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気付きを育む環境の工夫	・年齢に応じた飼育や栽培を行い、生長の様子を見たり触れたりする経験を通して、命の大切さを感じ取れるようにした。 ・絵本や物語を通して、人、もの、生き物に思いを寄せたり、その思いに気づくような時間をもたせられた。 ・日々の保育の中で、年齢に見合った内容で話をしたり、学級で話し合う場をもち、自分の思いを伝えたり友達のことを聞いたりして問題解決するよう心がけた。	B	・保育教諭自身が自分の言動がすべて“園児のモデル”という意識をもって教育・保育していく。 ・園児や保護者、職員間での会話など、相手を思いやる態度や言葉遣いを常に意識する。
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療機関、教育機関との連携 ○適切な支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	・専門機関や教育機関と連携し、具体的なアドバイスを受けたり、加配保育教諭の迷いや悩みを解消しながら一人一人に合った支援ができた。 ・保護者、加配保育教諭、担任が常に子どもの変化や成長の情報を共有し、細やかな支援を共に考えることができた。	A	・加配保育教諭同士、互いの迷いや悩みを共有しながら、有効な手立ての情報交換をしたり、現状把握をしたりするために特別支援教育部会の回数を増やす。 ・子どもや保護者に合った支援を考え、柔軟に対応していく。
家 庭 ・ 地 域 ・ 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○こども園・小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流	・市で「月1回」と決まっている学級だよりの発行では、タイムリーな内容にならないことがあった。 ・降園時に直接、保護者の顔を見ながら子どもの成長を共に喜び、悩み、信頼関係づくりの時間をかけた。 ・地域や小学校とのふれあい交流計画を作成したが、新型コロナウイルス感染症対策により実施できなかった。	B	・ドキュメンテーションを取り入れ、タイムリーに情報発信していく。 ・信頼関係なしには、受け入れてもらえないことも増えるので、そこを大事に一言一言丁寧に関わっていくようにする。 ・地域や小学校との交流は、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、できることを探り交流をもちたい。

## 4. 自己評価方法の適切さについての園関係者評価

・評価項目「A」。2020年度「2」、2021年度「4」と、職員資質向上が明確になっている。 ・コロナの影響で園に行く機会は少なかったが、それは園に通う子どもの保護者も同じだから園での様子をたくさん伝える為にお便りいっぱい子ども達の姿が書かれていた。感染拡大防止に評議員会が中止になった事は適切な判断と理解している。 ・教育に携わった者には十分理解できるが、一般の人には難しいと思われる。自由記述ではなく、対面でコミュニケーションをした方がよい。4.5月の参観と年度末の参観が一年間の成長ぶりを見られるので大切である。先生方の思いも聞いてみたかった。
---

## 5. 評価の観点ごとの関係者評価

学校園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・達成・未達成要因が把握されており、職員の資質向上に結び付いている。 ・園や自宅から会議に参加できるオンライン会議は、移動の手間や悪天候で出勤が困難な時や感染症対策としても便利で安全。参加者の表情がつかみにくい、通信状況によって音声が開きにくい、画像のみだれも心配されるが、今後も積極的に導入を進めたい。 ・研修は職員の力量を高めるためにも大切だが、みなさんの負担にならない程度にゆとりをもって進めて下さい。いつも心にゆとりを持ち仕事を楽しむことが一番大切である。
・「カンファレンス」、「ミーティング」との違いが理解されている。 ・コロナ禍の保育・教育で参加できる行事が無くなったり、制限される中で子どもたちの興味や関心をもてるあそび、製作、植物の栽培、生き物の観察等がならぬ実つうしんや各学級のおたよりで伝わり、子どもたちの喜ぶ姿や積極的に取り組む姿が目についた。 ・参観させていただいて様々な遊びにねらいがあり、一人一人をしっかり評価されている点に感銘を受けた。一年間の子どもたちの成長ぶりが大いに期待される。
・保護者の反応を取り入れた家庭教育講座は評価「A」とする。 ・『どんぐりクラブ』未就園の子もたちが園の道具と先生と関わる事で親も園の様子がわかって入園の際の不安も少なく、園が子どもたちにとって安全な場所だと知ってもらえる良い取組だが、中止となって残念である。家庭教育講座の実施はとも良い。保護者が日頃子育てに不安やどんな疑問をもっているかアンケート実施し専門分野の講師をお招きいただきたい。 ・今の世代の親対象の教育講座はとも有意義だと思う。家庭での子どもに対することばかけの重要性をもっともっと広めたいですね！父親の参加もぜひぜひ！！
・職員の危機管理意識研修(衣・食・住)。市担当者からの指導計画採用も考慮。 ・先生方の危機管理意識は強く深くなる。保護者の車での送迎時、駐車場でマナーの様子やトラブルが起こらないように見守りやお便りで伝えるなど保護者にも危機管理の意識をもってもらえるようになればよいと思ふ。 ・日頃の生活の中で子どもや職員間の安全安心に対する言動が全てである。 ・先生方の笑顔、人に対する優しいことばかけ、参観で感じることができた。
・会話の大切さ、楽しさを学ぶ。 ・在園していた頃「ならぬ実でコロナでなの？」と私に聞いてきた親がいた。「知らない」と無視を通したが、知りたがりな親はいると思ふ。マスクが着用できない子やアルコール消毒が肌に合わない子もいると思うので、感染症対策は大事だが、コロナに意識高過ぎの保護者がもしいたら先生方の子どもを守る強い姿勢で対応していただきたい。 ・自然(季節)の変化や生き物を大切にされている園の環境や取り組みに感謝する。
・保護者・加配保育教諭 情報の共有化。 ・グリーゾーンの子をもつ親、発達しようがいの子をもつ親、明るい人が多いが、先生方の前では空気を見せている方もいるので、子どもの成長を先生方と一緒に喜ぶ事で勇気ももらえる。支援を必要とする子どもも年々増えていると聞くが加配保育の先生は足りるのか心配。支援が必要な子どもが増えている昨今、ついついできないことに目がいきがちだが、できることに注目し些細な成長を見逃さない様になりたい。毎月の情報共有を欠かさずがんばってください。
・住んでいる「北条の宿(しゆく)」を歩く。出会う人達に「こんにちは」ことばの大切さを体験、学ぶ。 ・今後のコロナ感染数は予想できない。地域や小学校との交流が難しくなるが、先生方のあきらめない、交流計画を考える姿勢は強く感じる。手紙を送る、園で育てた花や植物をプレゼント、オンラインによる交流など、コロナ禍だからこそその発見を子どもたちに見せてくださると感じる。 ・外部評価を読ませていただいて、多様な価値観がある保護者が増えている中、皆さんの日々の対応の大変さに改めて感謝申し上げます。 ・タイムリーな情報発信を求められる先生方のご苦労に保護者ももっと感謝したいといけな。